

丹沢湖で確認したシジュウカラガン (大型亜種) の繁殖について

加藤 ゆき

Yuki Kato: The Breeding Record of a "Large-Sized Subspecies" of Canada Goose *Branta canadensis* at Lake Tanzawa

シジュウカラガン *Branta canadensis* は、北アメリカ全域に広く生息する大型のカモ類である。大きさや羽の模様、頸や嘴の形態によって 10 亜種以上に分けられている (黒田・森岡, 1980)。

日本には、アリューシャン列島で繁殖している亜種シジュウカラガン *B. c. leucopareia* が数少ない冬鳥として宮城県伊豆沼周辺へ渡来するほか、アラスカ半島で繁殖している亜種ヒメシジュウカラガン *B. c. minima* がまれな冬鳥として渡来する (桐原, 2000; 日本鳥学会, 2000)。

このほかに、千葉県や山梨県、静岡県において、前述の 2 亜種とは外部形態の異なる亜種が周年観察され、山梨県では繁殖も確認されている。これらの個体はいずれも、体の大きさが亜種シジュウカラガンよりもふたまわりほど大きく、首と嘴が長いこと、首の付け根に白い輪がないこと、胸が淡い灰色であることから、亜種カナダガン *B. c. canadensis* あるいは亜種オオカナダガン *B. c. moffiti* の

いずれかだと推測される (叶内, 1998; 桐原, 2000)。

このような大型亜種の生息地域は北米大陸であり、野生個体が日本へ渡来するとは考えがたく、飼育個体が何らかの理由で逸出したとされている。そのため、環境省は、「特定外来生物による生態系に係る被害防止に関する法律」において、在来亜種と交雑する可能性が危惧されることから、「シジュウカラガン (大型亜種)」として要注外来生物に指定している。

神奈川県でのシジュウカラガンの記録と亜種について

神奈川県では、1988 年 3 月に初めて相模川河口で飛翔している 7 羽が観察された (日本野鳥の会神奈川支部, 1992)。その後、相模原市や海老名市、清川村、箱根町において、それぞれ 1 回確認されている (日本野鳥の会神奈川支部, 2007)。いずれの記録も、首の長さが長いこと、首の付け根に白い輪がないことから、亜種シジュウ

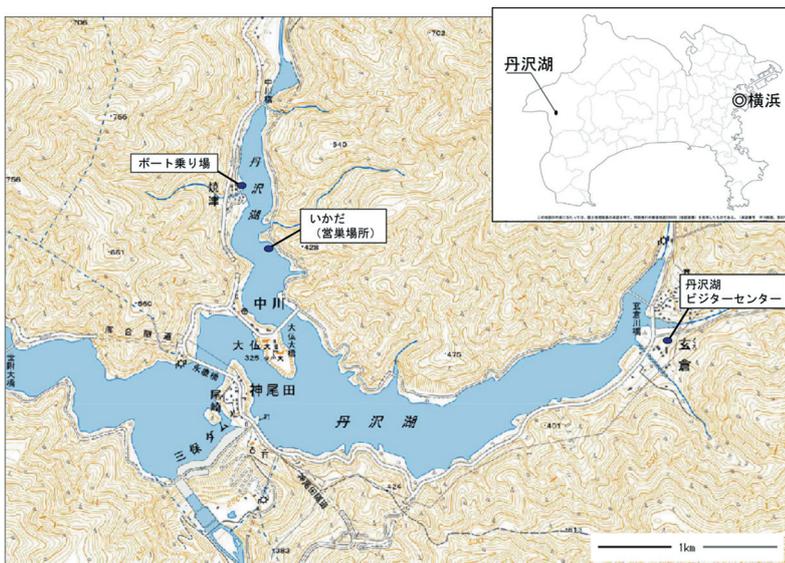


図 1. 丹沢湖の位置と主な施設 (地図は国土地理院発行の 2 万 5000 分の 1 の地形図 (山北) を使用)。

表 1. 1995 年から 2008 年までの丹沢湖におけるシジュウカラガン (大型亜種) の羽数の変遷状況。羽数はその年に確認した最大数を記している。

年	最大羽数	出典
1995	4(2)	日本野鳥の会神奈川支部 (1998)
1996	4	日本野鳥の会神奈川支部 (1998)
1997	-	データなし
1998	-	データなし
1999	6	日本野鳥の会神奈川支部 (2002)
2000	4(2)	日本野鳥の会神奈川支部 (2002)
2001	-	データなし
2002	6	日本野鳥の会神奈川支部 (2007)
2003	6	日本野鳥の会神奈川支部 (2007)
2004	6	山口ほか (2007)
2005	9(3)	山口ほか (2007)
2006	7	山口ほか (2007)
2007	7	著者確認
2008	10(3)	著者確認

最大羽数の () はヒナの内数

表 2. 丹沢湖で観察されている個体と、亜種シジュウカラガン、亜種カナダガンとの形態、鳴き声の比較。丹沢湖の個体は、首から胸にかけての模様、鳴き声が亜種カナダガンに近い。亜種シジュウカラガンおよび亜種カナダガンの形態は黒田・森岡（1980）を、鳴き声は桐原（2000）および House（1987）を参考にまとめた。

特 徴	丹沢湖の個体	亜種シジュウカラガン	亜種カナダガン
翼開長 (mm)	-	358-405	450-550
嘴の形態	比較的長くがっしりとしている	短くて小さい	長い
首から胸にかけての模様	首は黒色 胸は淡い灰色 首の付け根に白輪はみられない	首は黒色から黒褐色 首の付け根に白線の輪があり普通は幅が広くはっきりしている 首の白輪の下縁には普通細い暗色の境界線が出る	首は黒色 胸は白色から淡い灰色 首の付け根に白輪はみられない
鳴き声	カハーンカハーン グッ グワッ	グッ グワー	ホクーンホクーン

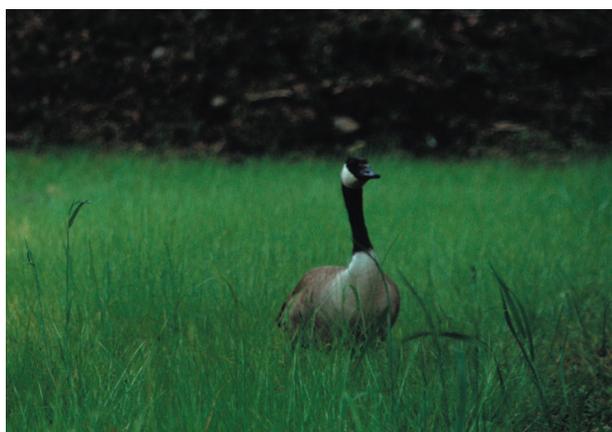


図 2. 丹沢湖で観察されているシジュウカラガン(大型亜種)の成鳥個体。胸が淡い灰色で、嘴と首が長い(2007年5月24日山北町玄倉にて撮影)。



図 3. シジュウカラガン(大型亜種)の成鳥3羽とヒナ2羽。成鳥3羽のうち右の2羽がつがいである(2008年6月10日山北町玄倉にて撮影)。

ウカラガンとは異なる大型亜種であることが確認されている(日本野鳥の会神奈川支部, 2007)。

神奈川県西部に位置する丹沢湖(図1)では、1993年5月に初めて記録され、1995年には成鳥2羽とともにヒナ2羽を確認、繁殖が明らかになった(日本野鳥の会神奈川支部, 1998)。その後、ほぼ毎年、成鳥4~10羽が報告、確認されている(表1)。ここの個体も、体の大きさが亜種シジュウカラガンよりもふたまわりほど大きく、首と嘴が長いこと、首の付け根に白い輪がないこと、胸が淡い灰色であることから、亜種カナダガンまたは亜種オオカナダガンのいずれかだと考えられる(表2, 図2)。

隣接する静岡県の公園や山梨県の湖沼において、1980年代から愛玩用に大型亜種が飼育されていた、という情報が寄せられており、おそらくこれらの地域で繁殖し増えたものが神奈川県各地へ飛来し、丹沢湖ではそのまま定着したと思われる。

調査について

著者は、2004年より丹沢湖においてシジュウカラガンの生態調査を続けてきた。今回、1995年、2000年、

2005年に続き4例目となる繁殖を確認したので報告する。

なお、本報告では、野生由来の2亜種(シジュウカラガン、ヒメシジュウカラガン)と区別するため、「シジュウカラガン(大型亜種)」と記すこととする。

繁殖状況

2008年にシジュウカラガン(大型亜種)の2つがいの繁殖を確認した。1つがいは、営巣場所は不明で、5月1日にヒナ3羽を連れた成鳥2羽が玄倉丹沢湖ビジターセンター前で確認された(山口喜盛氏, 私信)。著者は5月9日、29日にヒナ3羽、6月10日、27日にはヒナ2羽を確認した(図3)。このつがいは、ビジターセンター周辺で観察されることが多く、湖岸やキャンプ場、ビジターセンター前の広場で採食、休息を行い、時折湖面へヒナと一緒に降り、1~10分程度泳いでいた。つがい以外の成鳥1~2羽が一緒に行動することもあったが、時々親鳥から威嚇され、そのたびに10m程度離れるものの、すぐに近寄り行動をともにしていた。

もう1つがいは、著者が5月9日に焼津ポート乗り場ちかくのいかだ状の柵(以下いかだと称す)で抱卵

を確認, 29日も同じ場所で抱卵を続けており, 巣の中に卵が少なくとも2個あるのを確認した。しかし, 6月10日には巣の上に親鳥の姿が見えず, 卵も確認できなかった。その後も抱卵行動は確認できなかった。

原因は不明だが, 抱卵中, 釣り人が乗った手漕ぎボートがいかだへ近づくと, オスと思われる個体が, 「カハーンカハーン」と甲高く鳴きながら嘴を突き出すように泳ぎ寄り, 頭を前後に振りながらボートへ向かい威嚇していた。また, 周辺の林にはハシブトガラスが, 上空にはトビが多数認められた。おそらく, いかだが湖岸やボート乗り場に近かったため, 何らかの人的攪乱を受けたか, ハシブトガラスやトビにより卵を捕食されたため, 営巣を放棄したのではないかと考えられる。また, 卵が無精卵であった可能性も考えられる。

ヒナの生存状況

当初は3羽確認されていたヒナは, 2008年6月10日に2羽, 9月12日には1羽(山口喜盛氏, 私信)と徐々に減少した。著者は10月24日に, 丹沢湖ビジターセンター前でヒナ1羽が成鳥2羽とともにいるのを確認した。

2005年に確認されたヒナは, 5月5日に3羽, 5月18日に2羽, 6月11日には1羽へと減少し, この残った個体は, 翌年3月まで親と一緒にいるのを確認されている(山口ら, 2007)。

いずれの年も, ヒナが小さいうちにいなくなることから, 事故死をしたか, キツネやテン, トビなどによって捕食され死亡したと思われる。

まとめ

近年, 千葉県や山梨県をはじめ日本各地で, 丹沢湖に生息している個体と同じ大型亜種と思われる個体が, ほぼ一年を通して観察され, 繁殖も確認されている。

丹沢湖では, はじめて繁殖が確認された1995年以降, 生息羽数の増減がみられ(表1), 他地域との往来が予想された。

今後, さらなる羽数の増加, それにともなう繁殖つがい数とヒナの増加, 生息地域の拡大, 野生個体との交雑が懸念される。これからの動向に注意を払うとともに, 行政区分を超えて広域的に監視体制を整え, 外来生物として早急に対策を講じることがのぞましいと考える。

謝辞

本調査は笹川科学研究助成(研究番号20-802G)により行った。今回の報告をまとめるにあたり, 丹沢湖ビジターセンターの山口喜盛氏に貴重な情報をいただいた。また, 現地での調査時には, 同センターの木村洋子氏にお世話になった。この場を借りて感謝の意を表す。

引用文献

- House, C. J., 1987. Canada Goose. *In* Scott, S. L. (ed.) Field Guide of the Birds of North America Second Edition. p.66. National Geographic Society, Washington.
- 環境省, 2008. 特定外来生物等一覧. Online. Available from internet: <http://www.env.go.jp/nature/intro/1outline/list/index.html> (downloaded on 2008-10-27).
- 叶内拓哉, 1998. カナダガン. 山溪ハンディ図鑑7 日本の野鳥. p.44. 山と溪谷社, 東京.
- 桐原政志, 2000. シジュウカラガン. 日本の鳥550水辺の鳥. p.98. 文一総合出版, 東京.
- 黒田長久・森岡弘之監修, 1980. 世界の動物分類と飼育 [ガンカモ目]. 160pp. 財団法人東京動物園協会, 東京.
- 日本野鳥の会神奈川支部, 1992. 神奈川の鳥1986-91 神奈川県鳥類目録II. 440pp. 日本野鳥の会神奈川支部, 神奈川.
- 日本野鳥の会神奈川支部, 1998. 神奈川の鳥1991-96 神奈川県鳥類目録III. 308pp. 日本野鳥の会神奈川支部, 神奈川.
- 日本野鳥の会神奈川支部, 2002. 20世紀神奈川の鳥 神奈川県鳥類目録IV. 340pp. 日本野鳥の会神奈川支部, 神奈川.
- 日本野鳥の会神奈川支部, 2007. 神奈川の鳥2001-05 神奈川県鳥類目録V. 196pp. 日本野鳥の会神奈川支部, 神奈川.
- 山口喜盛・石井 隆・葉山嘉一・佐々木祥仁・川手隆生・藤井 幹・加藤ゆき, 2007. III鳥類. 丹沢大山総合調査団編, 丹沢大山総合調査学術報告書. pp.191-226. 財団法人平岡環境科学研究所, 神奈川.

加藤ゆき: 神奈川県立生命の星・地球博物館